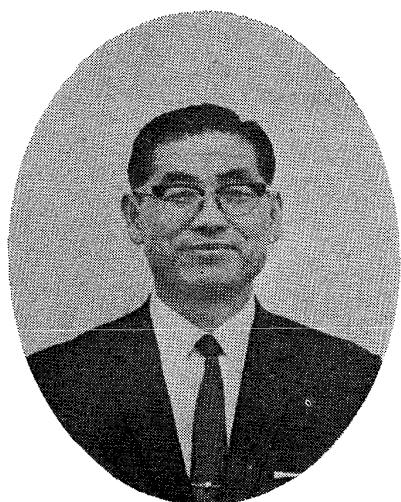




第 100 回講演大会に当たって

編集委員長 田 中 良 平

日本鉄鋼協会の講演大会は、ここに第 100 回を迎えました。
大正 14 年 (1925 年) に創立 10 周年を記念して第 1 回の講演大会
が開かれ、以来 55 年間、昭和の初めごろに 1 度と、第 2 次大戦終了
前後の混乱期とに大会の開かれなかつた年もありましたが、連綿と

続いて 100 回という大きな数字に達したわけであります。今日わが国の鉄鋼技術が世界最高の水準を自負するに至っていることと思ひ併せて、会員の皆様とともに、心から喜びを分かち合いたいと存じます。

大正末期における我が国の鉄鋼業は、おそらく今日の 1/100 程度という小さな規模であり、鉄鋼に関する技術者、研究者も数えるほどであつたろうと想像されます。そのような時代に、講演大会を発足させ、それを定常的に開催できるところまで基礎づくりをされた方々の御努力は大変なものであつたろうと思います。また、終戦直後の紙も十分に無い、食べるものさえ不自由な時代に大会を再開させた方々の御苦心も並大抵ではなかつたことと想像いたします。それらの方々を始めとして多くのすぐれた諸先輩の御苦勞が我が鉄鋼協会の栄光ある伝統をつくり、今日の発展を導いたものでありましょう。ここに深く感謝の意を表したいと存じます。

日本鉄鋼協会では、いつのころからか存じませんが、講演大会の運営などはすべて編集委員会がこれを担当して参りました。とくに、昭和 40 年ごろからは、編集委員会内に、和文誌、欧文誌、講演大会、および出版の 4 つの分科会が設置され、そのうち講演大会分科会が文字通り春秋の講演大会に関する計画、立案、実行などを直接担当して参りました。数多い講演大要原稿の査読、プログラム編成、座長の選定や会場の割振りなどは、和文誌分科会委員の応援も受けますが、これらを含めた万般の仕事を取り仕切っているわけであります。とくに今回の第 100 回大会に当つては、座談会「2000 年の鉄鋼産業」の企画・実施と、その記録やいろいろの豊富な興味ある記事を満載した記念出版物の編集・刊行、さらには特別講演会という 3 本柱を中心としたすばらしい着想で記念すべき大会を演出していただきました。この紙面を借りまして、郡司好喜主査、細井祐三幹事始め関係者の方々の熱心な御努力に心からお礼を申し上げます。

ところで、今回の講演発表件数は、討論会を除いても 725 件という大変な数に達しました。これまで、講演数は着実に増加して参りましたが、今回は昨秋の 561 件、今春の 598 件に比べても大幅な増加であります。

これは、鉄鋼に関する学術・技術の研究開発がますます盛んであることの証拠であり、まことにご同慶の至りであります。

いわゆる 80 年代における我が国の経済や産業の動向は必ずしも楽観を許さない面があると思いますが、それ故に、鉄鋼に関する学術・技術をなお一層発展させることが必要であろうと考えます。日本鉄鋼協会の講演大会は、それらの学術・技術の研究成果を発表し討論する場として、またそれを通じて学術・技術の進歩を促進する重要な機関として、一層大きな役割を果たすべきであると考えます。

先輩各位の御指導と、会員の皆様方の御協力御助言をお願い申し上げる次第であります。